

# オープンラボ 2003 実施報告

## (海の水質検査と赤潮プランクトンの観察の部)

丸山朝子  
梶 一成  
酒井 泰

### 1 目的

環境月間事業として、公害研究所の施設公開を含め環境学習の機会を提供し、環境教育の啓発事業として大気と水質について実施した。水質部門ではプランクトン観察と海水の COD 分析を行った。

### 2 実施日

15 年 6 月 28 日 (土)

### 3 対象

小学 4 年生から大人まで 23 名うち 14 名が水質の部に参加した。

### 4 事前準備

海水とプランクトンの採取は前日 6 月 27 日に港湾局船着き場にて行った。

### 5 実施内容

「川崎の海の水質と赤潮プランクトン」について講義を 15 分間 COD 分析前半を 30 分間、プランクトンの顕微鏡観察を 30 分間実施し、その後 COD 分析後半、滴定及び濃度への計算まとめ終了後、所内見学とした。



### 6 実施課題

今回の環境学習は、プランクトンの観察と海水の COD の分析であった。両者の実施内容は、大変興味ある内容であったが、小学生の受講生にとってはかなり高度な難しい内容であった。しかし補助的にパワーポイントを多用し、多面的な情報提供を行い、理解を助けた。全体的には、「環境と人との係わり」、「赤潮とプランクトン」、「赤潮発生の原因とメカニズム」等基本的な概念は理解していたようである。

・ 参加者全体としては、実習の内容は理解できたが、分析の意義、赤潮や水質汚濁との関連につ



いて理解ができたか疑問が残った。教材の赤潮は、発生がなく、十分なプランクトンの採取ができず、遠心分離・ろ過等を行ったが期待する効果がなかった。

・ 専門的な情報を提供するのではなく、自然環境



の大まかなメカニズムの理解を助ける補助・手助けをする観点から使用教材の選択が重要である。従って、専門用語の使用、高度な自然現象をわかり易く伝えなければならない。

- ・修了者には、所長から終了証と記念の缶バッチを手渡した。この時の受講生の環境に対する意識・認識が、更なる環境への興味、新たな活動に結びつくことを期待したい。